

とみよし 吉地区遺跡
かかむら の 野地区遺跡
おかがわ 川地区遺跡
はらいがわ 川地区遺跡
はつたんいままち 反今町地区遺跡
ふなひき 船引地区遺跡
もともと 元野地区遺跡

平成 7 年度 農業基盤整備
事業に伴う発掘調査概要報告書

平成 8 年 3 月

跡 跡 跡 跡 跡 跡
跡 跡 跡 跡 跡 跡
遺 遺 遺 遺 遺 遺
遺 遺 遺 遺 遺 遺
地区 区 区 区 区 区
吉野村地区地区地区地区地区
富鹿川反今町地区地区地区
小払川引野地区地区地区
船八元地区地区地区

平成 7 年 度 農 業 基 盤 整 備
事 業 に 伴 う 発 掘 調 査 概 要 報 告 書

平成 8 年 3 月

宮崎県教育委員会

序

日頃から埋蔵文化財の保護・活用に対し深いご理解をいただき、厚くお礼申し上げます。宮崎県内各地では各種の農業基盤整備事業が実施されておりますが、事業実施予定地内にも多くの遺跡が存在し、文化財の保護と農業基盤整備事業との調整がひとつの課題となっております。県教育委員会では、農政部局との協議資料として事業実施予定地内の分布調査や発掘調査を実施し、遺跡の所在の有無、性格、範囲等の基礎資料を作成しております。

本報告書は、平成7年度に試掘調査を実施しました宮崎市富吉地区遺跡など7か所の調査結果について、その概要を報告するものであります。これらの調査結果が文化財の保護に生かされるとともに、地域の歴史の解明や生涯学習の場で活用されるなど役立てていただければ幸いに存じます。

最後に、調査にあたってご協力をいただいた地元の土地改良区ならびに市町村教育委員会、各農林振興局などの関係諸機関のみなさまに厚くお礼を申し上げます。

平成8年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田原直廣

例　　言

- 1 本報告書は、宮崎県教育委員会が平成7年度の国庫補助を得て実施した発掘調査の概要報告書である。
- 2 発掘調査は、宮崎県内の農業基盤整備事業に伴う周知の遺跡の確認調査及び未周知か所の試掘調査として実施した。
- 3 遺跡の名称は、現在周知されている遺跡についてはその名称を、今回の分布調査、試掘調査等で新たに確認された遺跡についてはその農業基盤整備事業の地区名を使用している。正式な遺跡名は、今後字名等を参考に命名される予定である。
- 4 発掘調査は、県文化課埋蔵文化財第一係長面高哲郎、同係主査石川悦雄、同永友良典、同菅付和樹、同谷口武範が担当した。また、発掘調査にあたっては、関係市町村教育委員会及び同農政部局、当該地区的県農林振興局等の協力を得た。
- 5 本報告書の執筆は各担当者が行い、編集は菅付が行った。
- 6 出土した遺物は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで保管している。

目　　次

第1章 平成7年度の発掘調査概要	1
第2章 発掘調査の結果	1
第1節 富吉地区遺跡	1
第2節 鹿村野地区遺跡	4
第3節 小川地区遺跡	8
第4節 払川地区遺跡	11
第5節 八反今町地区遺跡	14
第6節 船引地区遺跡	18
第7節 元野地区遺跡	21

第1章 平成7年度の発掘調査概要

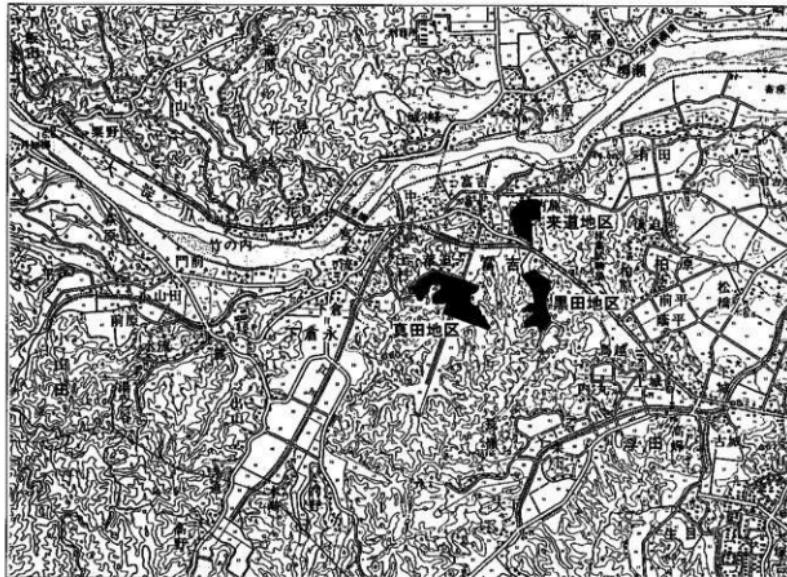
平成7年度は県営は場整備事業、同担い手育成事業、農地保全整備事業、緊急畠地帯総合整備事業、中山間地域農村活性化総合整備事業、広域農道整備事業、農免農道整備事業、ふるさと農道整備事業、及び、国営農業水利事業等の農業基盤整備関連の事業のうち、周知の埋蔵文化財包蔵地及びその周辺地区、並びに遺跡立地の可能性のある地域を含む事業を中心に、平成7年度事業区及び8年度以降の事業区について分布調査、及び試掘調査、確認調査を実施した。(詳細は表3を参照)

今回報告する遺跡は、そのうち8年度予定の事業地区について行った確認調査・試掘調査結果を掲載する。

第2章 発掘調査の結果

第1節 富吉地区遺跡

富吉地区遺跡は宮崎市西部、高岡町と接する富吉地区に所在する。国道10号線の大淀川添いに南北に細長く広がる水田地帯にあたり、県営は場整備事業(担い手育成事業)の事業区内を範囲とする。国道の南側の真田地区、黒田地区、北側の来道地区からなる。なお、これらの地区は昭和40年代に一度耕地整理が行われている。来道地区的隣接地には県指定古墳生目村古墳(横穴墓)が2基分布する。また、平成5年度に県教育委員会が実施した東九州自動車道関連の分布調査では黒田地区で下遺跡、真田地



第1図 富吉地区遺跡(平成7年度調査地点)

区の隣接地で追跡が確認されている。

調査は耕作等の関係から真田地区、来道地区、黒田地区で6月15日、7月13日、8月16日・17日、12月11日～14日の延べ8日間で実施した。

(1) 真田地区

真田地区は真田池から大淀川に北流する天神川（小河川）の両岸に細長く広がる水田地帯で二月田、天神領などの知名が見られる。調査では現在の集落が集中する二月田や天神領などの地区を中心に、微高地、追田、低湿地に幅1m×長さ3～4mのトレンチを13カ所に入れて確認した。調査の結果、二月田周辺（トレンチ6、トレンチ12）とその対岸の追田周辺（像林～トレンチ1、トレンチ2）の微高地一帯で平安時代の土師器片を含む包含層が火山灰層（文明？）の下層から検出された。他のトレンチでは遺構、遺物は確認されず、土層にも乱れが見られた。二月田周辺の微高地では耕地整理でかなり削られている地点も見られトレンチ12周辺以外は残りが悪い。なお、二月田周辺は8年度工区であるが道路部分についてのみ市教育委員会が9月に本調査を実施した。

(2) 黒田地区

真田地区とは低丘陵を挟んで東側に位置する。真田地区同様、黒田池から大淀川に流れ込む小河川添いに南北に細長く伸びる水田地帯である。追田や低湿地に幅1m×長さ3～4mのトレンチを12本入れて確認した。確認したトレンチの深さでは遺構・遺物は検出されなかった。

(3) 来道地区

真田地区・黒田地区とは国道10号線を挟んで北側に位置し大淀川に近い。西側の丘陵には県指定史跡生日村古墳の横穴墓が2基（内1基はほとんど崩壊している）分布する。来道地区は比較的平坦に広がる水田地帯だが低湿地ではない。地区全域に幅1m×長さ3～4mのトレンチを8本入れた。確認したトレンチの深さでは遺構・遺物は検出されなかった。



富吉地区遺跡（真田地区）調査風景



第2図 富吉地区遺跡トレンチ配置図

第2節 鹿村野地区遺跡

鹿村野地区遺跡は県営農地保全整備事業鹿村野地区に分布する遺跡群の総称である。田野町東部の宮崎市、清武町との境界添いを流れる黒北川によって開削された標高約180m級のシラス台地上に分布している。当該地区では、平成8年度から県営農地保全整備事業（特殊農地保全整備）が計画されており、これまでに町教育委員会が平成3年度に実施した遺跡詳細分布調査では前ノ原第1遺跡、前ノ原第2遺跡、前ノ原第3遺跡の3遺跡が周知されている。

平成7年度の確認調査は台地の中央にある鹿村野小学校（現在休校）の南側（A地区）を平成7年8月23日・24日、北東（B地区）を平成8年2月5日・7日・9日にそれぞれ実施した。

この地区的基本的な土層はⅠ層～表土（耕作土）、Ⅱ層～黒色土、Ⅲ層～2次アカホヤ層、Ⅳ層～アカホヤ火山灰層、V層～暗褐色土（ブロック状に入る）、VI層～褐色土（褐色のブロックが混じる）、VII層～明褐色土（白色、黄色の軽石、小石が混じる）、VIII層～シラス層である。

(1) A地区

A地区では県道花見・田野線の南側に24ヵ所、北側に2ヵ所、計26ヵ所のトレンチを入れた。調査の結果、多くのトレンチでⅡ層～Ⅲ層が削平されており表土下は直にⅣ層（アカホヤ火山灰）となる。特に、西側の県道添いのT12～T15、T18～T21、T23・T24ではⅣ層下位からⅣ層までかなりの削平が見られる。しかし、南側の台地端部では残りが良くT9～T11ではⅡ層の黒色土が見られる。

遺構は検出されなかったが、南西端のT22では表土下約90cmのVI層（暗褐色土）から縄文時代早期の土器小片が1点出土した。また、県道北側のT25では表土直下のVI層中から焼碟数点が出土した。



第3図 鹿村野地区遺跡平成7年度調査地点



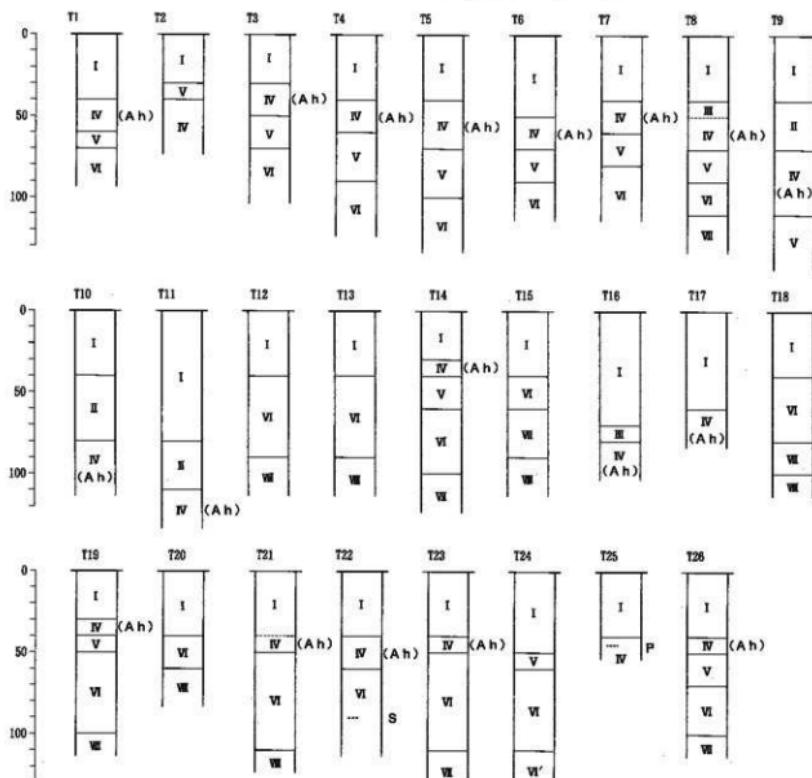
第4図 廖村野地区遺跡トレンチ配置図

以上のことから、西側台地端部の高台に遺跡の分布が考えられる。県道の切り通し（地点A）にも焼穢が数箇所に確認できるが、T18～T21に見られるようにすでに一帯は著しく削平されており遺跡の残存は県道北側のT25周辺に限られる。

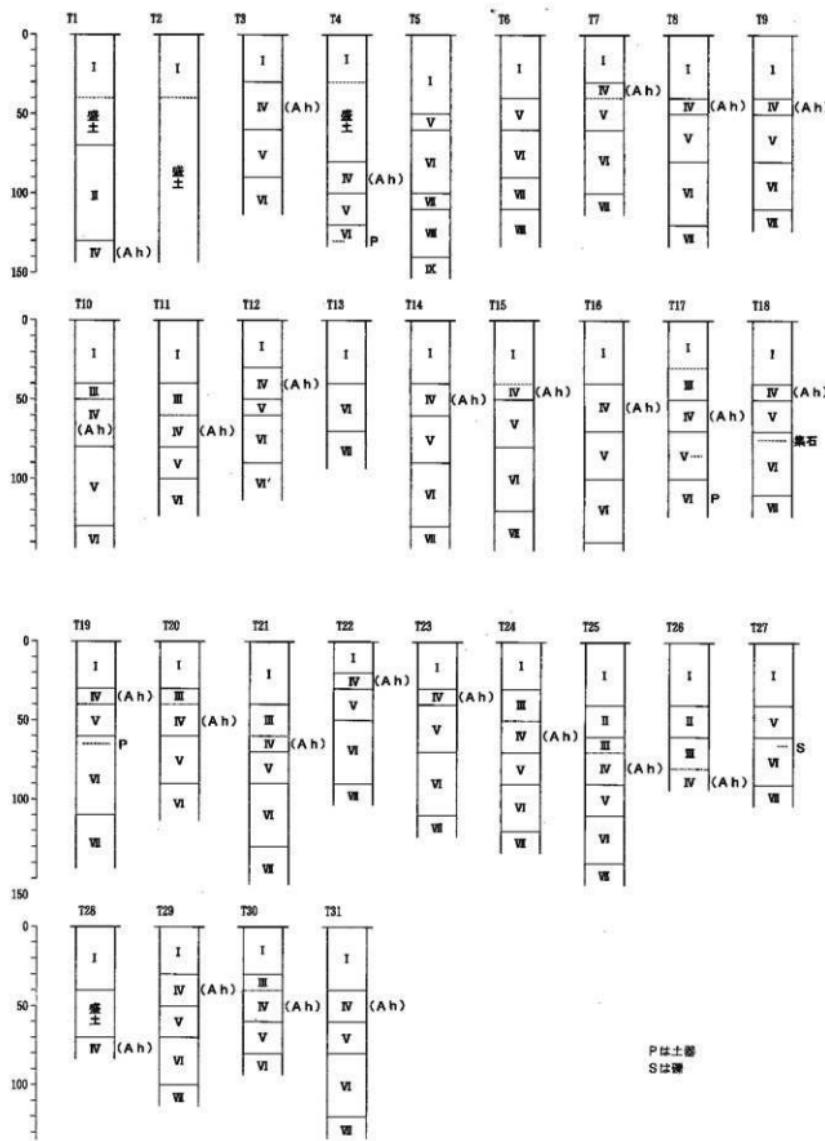
(2) B地区

B地区では県道南側の谷地形を挟んで17カ所、県道北東の台地端に14カ所、計31カ所にトレンチを入れた。B地区もA地区同様、Ⅱ層～Ⅲ層まで削平を受けており県道の北東側のT25～T26でⅡ層の黒色土が見られる。

遺構や遺物の検出は南東端のT18で表土下約70cmのⅥ層（暗褐色土）から集石遺構が検出された。また、隣のT19では同じ層から縄文時代早期の土器が数点出土しており、遺跡の分布が認められる。また、県道北側の丘上にある水源地近くのT4・T27でもⅥ層中から焼穢数点が出土した。水源地周辺の高台を中心に遺跡の分布が想定され、T4・T27は遺跡の端部は流れ込みと思われる。



第5図 鹿村野地区遺跡A地区土層図



第6図 鹿村野地区遺跡B地区土層図

第3節 小川地区遺跡

1 遺跡の位置と調査に至る経緯

東臼杵郡西郷村の小川地区遺跡は、村役場の南々東約2.5~3.3kmに位置し、耳川の支流小川の両岸に点在する横の鶴遺跡・小川上之原遺跡・下峰地遺跡の総称である。西郷村では、平成5~9年度の5カ年の予定で県営中山間地域農村活性化総合整備事業西郷地区が実施されており、平成6年度の上川久保工区のは場整備は県文化課の確認調査の結果工事立会の措置をとったが、平成7年度は小川工区のは場整備が計画され、うち下峰地遺跡と横の鶴遺跡について村教育委員会が記録保存のための発掘調査を実施している。また、小川工区のうち小川上之原遺跡については、平成7年9・10月の確認調査の結果、遺跡の密度が高いこと、村に埋蔵文化財の専門職員がないこと等から事業実施を来年度以降に延期することになった。

2 確認調査の概要

確認調査を行った箇所は、小川の左岸河岸段丘上の上之原遺跡で、すぐ横は谷川が流れる立地条件のよい場所である。現在水田地帯となっている。以前分布調査を実施した際に畑地として利用されていた箇所で縄文土器片を採集している。調査はすべて人力で行い、深耕は一部ランマーを用いて土を整めた。

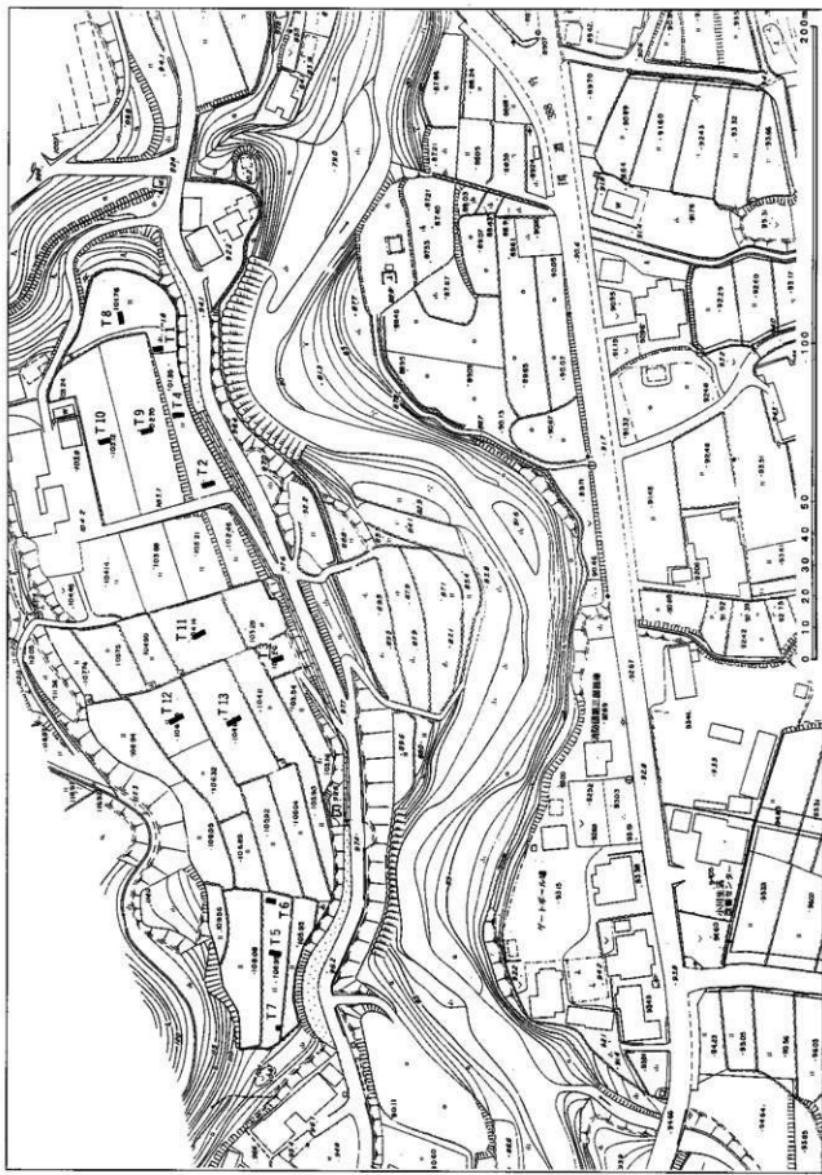
調査の結果、水田耕作土の下の基盤層の直下には広くアカホヤ火山灰層が残存し、その上面で土坑を確認した。埋土は風化したアカホヤである。水田耕作土中で弥生土器片が出土していることから該期の遺構の存在も予想される。耕作土を動かす際には注意を要する。アカホヤ火山灰層の下には集石道構や縄文時代早期の遺物包含層が比較的良好な状態で確認できた。部分的に削平や遺構遺物が確認できなかった所があるものの、地形上、遺跡は河岸段丘の全面に広がっているものと考えられる。

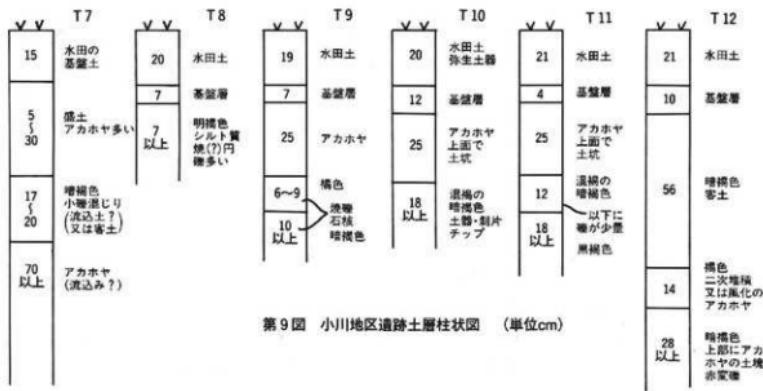
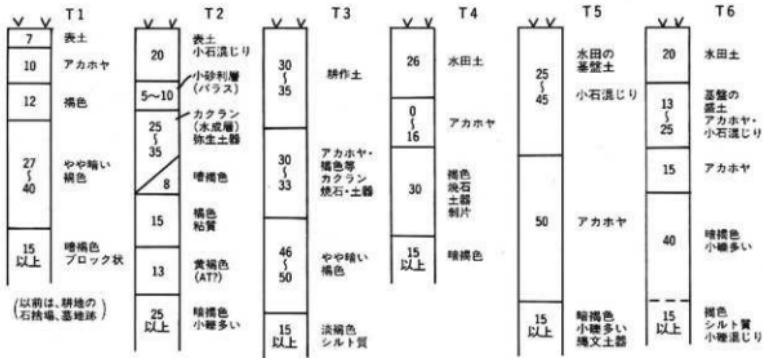
各トレンチの状況は第9図のとおりである。



第7図 小川地区遺跡位置図

第8図 小川地区道路トレーンチ配図図





T13
18 水田土
14 基盤層
10 (26) アカホヤ の客土
9 (26) 暗褐色主体 の客土
28 アカホヤ
30以上 黒褐色



小川地区遺跡T4遺物出土状況

第4節 払川地区遺跡

1 調査に至る経緯

東臼杵郡西郷村では、県東臼杵農林振興局による県営中山間地域農村活性化総合整備事業西郷地区が平成5～9年度の5カ年間の予定で実施されており、これに伴い県ならびに村教育委員会では、上川久保・立石・小川・払川の各工区の試掘調査を順次行って来た。そのうち、平成8年度以降は場整備事業が実施される予定の払川工区について、キション原地区を対象に平成7年10月31日～11月1日の2日間確認調査を行った。

2 遺跡の位置と確認調査の概要

確認調査を行ったのは、村役場の北西約0.7kmに位置する舌状の丘陵上で、以前法面が崩壊した際に縄文土器等が採集されキション原遺跡とされていたところである。その両側は水量豊富な谷川が流れ立地条件のよい場所である。

調査は殆ど人力で行い、現在水田であるため土を締めるのにはランマーを用いた。

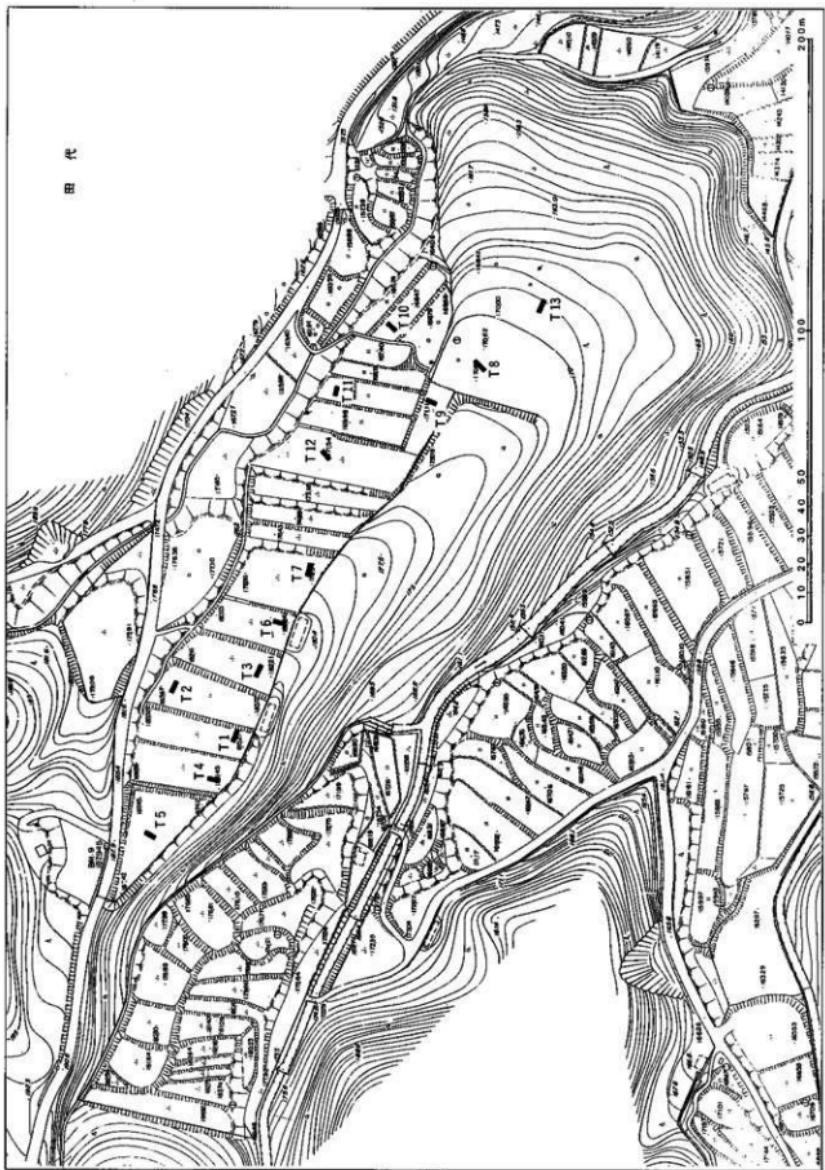
調査の結果、アカホヤ火山灰層の上で風化または二次堆積と思われるアカホヤから縄文時代前期と考えられる土器片が出土した。また、アカホヤ火山灰層の下には、縄文時代早期の土器や焼碟、剥片を含む包含層が良好な状態で確認された。このほか、T4ではAT（姶良・丹沢火山灰）と思われる淡褐色の砂質土がブロック状に見られる層の下から旧石器時代の可能性がある剥片が数点出土している。全体としては、開田された箇所は削平部分の包含層の残存状況があまりよくなく、盛土部分には良好な状態で残存している。また、現在果園になっている箇所は、アカホヤ火山灰層以下早期の包含層が集石造構を含む良好な状態で残存している。

各トレンチの状況は第12図のとおりである。



第10図 払川地区遺跡位置図 (1/50,000)

第11図 波川地区道路トレーンチ配図図

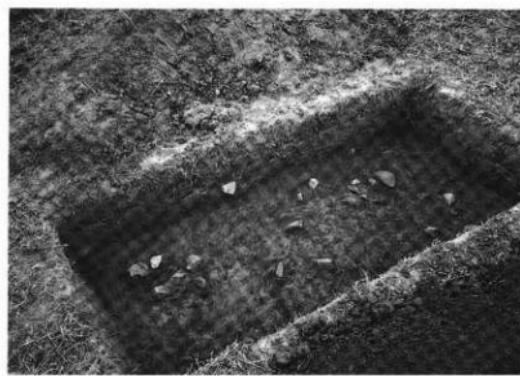


田代

T1 北東壁	T1 南西壁	T2	T3	T4	T5
20 水田土	20 水田土	17 水田土	18 水田土	16 水田土	14 耕作土
23 風化又は 2次堆積 29 アカホヤ	0~8 粘土 3 黒 15 暗褐色 (旧表土)	5 やや暗い 褐色 粘質強 め多い 15 アカホヤ	7 アカホヤ 15 以上 粘質 粘質角層 が多い 無片	12 褐色 A1 T 土塊 20 シルト質 (混暗褐色土塊)	8 以上 褐色 白斑 が多 大石も 多く 固結する
30 以上 褐色 シルト質 上部に 礫石 縄文土器 剝片	12 アカホヤ 23 褐色	21 やや暗い 褐色 シルト質 口辺のある 角礫混じり	30 以上 やや暗い 褐色 シルト質 口辺のある 角礫混じり	15 以上 やや暗い 褐色 粘質 白斑 がある 角礫混じり 巨石	
南西へ傾斜					
T6	T7	T8	T9	T10	T11
18 水田土 5 基盤層 赤っぽい 褐色 上面に 焼磚 ・粘石遺構 ・石頭 剝片 4 以上	17 水田土 10 害土 チップ 石頭 0~5 旧表土 0~5 アカホヤ 25 以上	22 害土 (集団) 22 アカホヤ 20 以上 褐色 粘質強 め多い 無石遺構 焼成土器 剝片	20 水田土 6 基盤層 0 土 (褐色) 23 30 以上 褐色 粘質強 め上面に 焼磚が 少 量	20 水田土 0~4 基盤層 (部分的) 0 旧表土 (暗褐色のみ) 26 20 シルト質 粘質 少量の 無片(?) 下部に A1 小土壤 25 以上 褐色 小量多	20 水田土 25 害土 36 20 アカホヤ 15 褐色 燒磚 チップ 縄文土器 12 以上
東へ傾斜					

第12図 払川地区遺跡土層柱状図 (単位cm)

	T 12		T 13
V V		V V	
20	水田土	14 18	表土 (葉團)
26	害土	17 20	アカホヤ
27	白表土 (黒褐色)	30 以上	褐色 流域 チップ 博文土等
22	黒化アカホ ヤ 流域 曾根武土等(?)		東へ傾斜
15	アカホヤ		
10 以上	暗褐色		
	東へ傾斜		



弘川地区遺跡T6 遺物出土状況

第5節 八反今町地区遺跡

1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

農用地整備公団が平成8年度から実施する予定の都城地区農用地総合整備事業では9団地の圃場（約160ha）、約21kmの広域農道が整備される。事業に先立ち、県文化課では平成6年度から整備予定地の試掘、確認調査を実施している。本年度は平長谷、八反、今町の3団地について調査を行い、八反、今町団地で遺跡の存在及び性格等を把握した。八反地区は都城市大岩田町他の梅北川两岸に広がる河岸段丘上に所在する。都城市大岩田町及び今町に広がる今町地区は八反地区西側に隣接するシラス台地に所在する。

2. 試掘・確認調査の概要

(1) 八反地区遺跡

11箇所の調査グリッドのうちG3、G10で畦畔状の高まりを検出しG5で土壤を検出した。土壤、畦畔状造構とも0.9~1.1mの深度に存在する。試掘結果は表1、2の一覧表及び第15図の土層柱状図に示した。畦畔及び水田造構については、採取した土壤のプラントオパール分析結果を待って判断したい。

(2) 今町地区遺跡

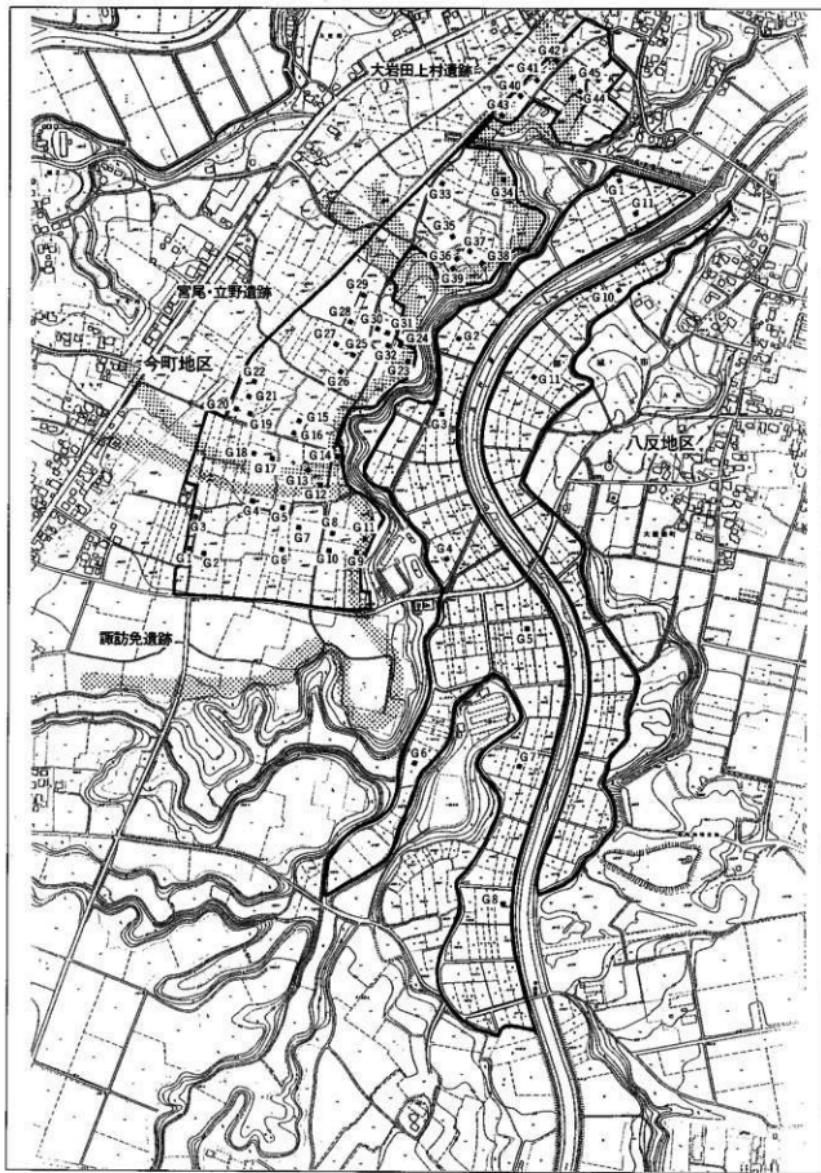
南北に細長い今町地区は地形上3地区に区分でき、北から大岩田・宮尾・立野・諏訪免遺跡として周知されている。各遺跡とも遺物は黒色土に包含され、遺構は黒色土と御池ボラ層との漸移層で確認された。45箇所設定したグリッドの試掘結果は表1、2の一覧表及び第15図の土層柱状図に示す。



第13図 今町・八反地区位置図 (1/50,000)

1：今町地区

2：八反地区



第14図 八反・今町地区遺跡調査グリッド配置図

団地	グリッド	検出層位	深さ (m)	遺構	数	規模(cm)	備考
今町	G 6	6層:混黒色土ボラ	0.75	柱穴(P1、P2)	2	25×15、15×15	方形柱穴
	G 7	6層:混黒色土ボラ	0.8	柱穴?	1	15×15	不確定
	G11	5層:混ボラ黒色土	0.8	柱穴?(P1、2)	2	15×15、15×15	方形柱穴?
	G23	4層:混黒色土ボラ	0.3	柱穴	1	40×40、(深55)	方形、規模大
	G26	7層:混黒色土ボラ	1.0	柱穴(P1) 土壤?(P2)	1	30×25(深30) 90×70以上(深20)	円形柱穴 径90cm
	G35	8層:混ボラ黒色土	1.5	柱穴(P1~5)	5	15×15程度	円形柱穴
	G36	4層:混ボラ黒色土	0.6	柱穴(P1~4)	4	P1:径25(深30以上) P2:径25(深40以上)	円形柱穴
	G43	5、7層:硬化面	0.6	道路状遺構	2	幅1m以上	段差(終端か?)
	G44	5層:混黒色土ボラ	0.4	柱穴	1		円形柱穴
八反	G 3	6層:灰褐色砂質土	1.1	畦畔?	1		プランオバル分野
	G 5	9層:酸化シラス	0.9	擂鉢状土壤	1		長方形か? シラス2次堆積?
	G10	6層:黒褐色土	1.1	畦畔?	1		プランオバル分野

表1 検出遺構一覧表

団地名	グリッド名	遺物出土層位	深さ (m)	出土遺物
今町	G 6	4層黑色土?	0.4?	縄文時代チャート製石器1点
	G23	2層黑色土	0.1	縄文もしくは弥生土器片1点。
	G25	3層黑色土	0.6	弥生中期甕口縁部1点、胴部片1点、近世(?)陶器片1点。
	G30付近	黑色土?	0.2?	弥生もしくは土師器片、須恵器片少量
	G33	5層黑色土	0.6	中世土師器皿片(ヘラ切り底)等約10点。グリッド近辺で中世の輸入青磁片(蓮華文)1点他表採。
	G38	4層黑色土	0.4	近世(?)陶器片1点。
	G39	3層黑色土	0.4	縄文晩期鉢口縁部等12片。
	G41	2層黑色土	0.3	中世輸入青磁碗底部1点、縄文もしくは弥生土器片1点。
	G45	3層黑色土	0.4	中世土師器皿片(ヘラ切り底)他4点。
八反	G 3	2層床土	0.2	土師器片2点(時期不詳)
	G 8	2層床土	0.2	陶器片1点(近世?)

表2 出土遺物一覧表

今町 G 6		今町 G 7		今町 G 11		今町 G 23		今町 G 25	
V	V	V	V	V	V	V	V	V	V
耕 作 土	25cm	耕 作 土	15cm	耕 作 土	15cm	耕 作 土	10cm	耕 作 土	20cm
灰褐色土+バミス	5cm	灰褐色土+バミス	15cm	灰褐色土+ボラ+バミス	20cm	黑色 土	10cm	灰褐色土+ボラ+バミス	40cm
文 明 ボ ラ	5cm	文 明 ボ ラ	5cm	文 明 ボ ラ	5cm	黒 色 土	10cm	黑 色 土	40cm
黑 色 土	30cm	黑 色 土	45cm	黑 色 土	40cm	混黑色土ボラ	5cm	黑 色 土	15cm
温ボラ黒色土 —→硬質化層	15cm	温ボラ黒色土 —→硬質化層	15cm	温ボラ黒色土 —→硬質化層	5cm	御 池 ボ ラ	25cm	温ボラ黒色土	30cm
温黑色土ボラ	5cm	温黑色土ボラ	10cm	温黑色土ボラ	5cm	黑色粘質土	30cm	赤ホヤ火山灰	
御 池 ボ ラ		御 池 ボ ラ		御 池 ボ ラ					

今町 G 26		今町 G 33		今町 G 35		今町 G 36		今町 G 38	
V	V	V	V	V	V	V	V	V	V
耕 作 土	20cm	耕 作 土	25cm	耕 作 土	20cm	耕 作 土	30cm	耕 作 土	10cm
灰褐色土+バミス	10cm	灰褐色土+ボラ	10cm	灰褐色土+ボラ+バミス	10cm	黑 色 土	20cm	灰褐色土+ボラ+バミス	25cm
文 明 ボ ラ	5cm	灰褐色土+ボラ+バミス	15cm	灰褐色土+ボラ+バミス	15cm	黑 色 土	20cm	文 明 ボ ラ	5cm
黑 色 土	45cm	黑 色 土	10cm	黑 色 土+ボラ+バミス	30cm	混黑色土ボラ	5cm	黑 色 土	40cm
黒色土+ボラ少	10cm	黑 色 土+褐色ブロック	50cm	黑 色 土+ボラ少	50cm	混黑色土ボラ	15cm	黒色土+ボラ少	10cm
温ボラ黒色土 —→硬質化層	10cm	黑 色 土+ボラ少	10cm	黑 色 土+ボラ少	20cm	御 池 ボ ラ	30cm	温ボラ黒色土	10cm
温黑色土ボラ	10cm	混黑色土ボラ	10cm	混黑色土ボラ	10cm	御 池 ボ ラ	10cm		
御 池 ボ ラ	20cm	御 池 ボ ラ		御 池 ボ ラ		御 池 ボ ラ			

今町 G 39		今町 G 41		今町 G 43		今町 G 44		今町 G 45	
V	V	V	V	V	V	V	V	V	V
耕 作 土	20cm	耕 作 土	25cm	耕 作 土	15cm	耕 作 土	10cm	耕 作 土	20cm
文 明 ボ ラ	15cm	黑 色 土	30cm	灰褐色土+ボラ	20cm	灰褐色土+ボラ+バミス	5cm	灰褐色土+ボラ+バミス	20cm
黑 色 土	50cm	黑 色 土+ボラ少	15cm	黑 色 土+ボラ少	15cm	黑 色 土	20cm	黑 色 土	45cm
黑 色 土+ボラ少	15cm	温ボラ黒色土	10cm	温ボラ黒色土	10cm	混黑色土ボラ	10cm	黑 色 土+ボラ少	10cm
温ボラ黒色土 —→硬質化層	10cm	混黑色土ボラ	10cm	混黑色土ボラ	10cm	御 池 ボ ラ	35cm	温黑色土ボラ	20cm
御 池 ボ ラ		御 池 ボ ラ		御 池 ボ ラ		御 池 ボ ラ		御 池 ボ ラ	

八反 G 3		八反 G 5		八反 G 10		八反 G 10		八反 G 10	
V	V	V	V	V	V	V	V	V	V
耕 作 土	15cm	耕 作 土	20cm	耕 作 土	20cm	耕 作 土	20cm	耕 作 土	20cm
床 土	10cm	床 土	10cm	床 土	20cm	床 土	20cm	床 土	20cm
青灰色砾質土+砂粒	25cm	灰褐色酸化土	5cm	青灰色砾質土	5cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色砾質土	45cm
灰褐色砂質層	25cm	青灰色砾質土	5cm	灰褐色酸化土	15cm	青灰色砾質土	30cm	黑褐色土	10cm
青灰色火山灰	25cm	青灰色砾質土	5cm	灰褐色酸化土	10cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色火山灰	20cm
青灰色火山灰+砂質化	20cm	青灰色砾質土	5cm	灰褐色酸化土	15cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色火山灰	20cm
青灰色火山灰+砂質化	10cm	青灰色砾質土	5cm	灰褐色酸化土	10cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色火山灰	20cm
灰褐色砂質層	若干	シラス (軟化)	15cm	灰褐色酸化土	15cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色砾質土	20cm
青灰色砾質土	5cm	シラス (軟化)	15cm	灰褐色酸化土	10cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色砾質土	20cm
青灰色砾質土	35cm	シラス	80cm	灰褐色酸化土	15cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色砾質土	20cm
砂 質 層	15cm	砂 層	20cm	灰褐色酸化土	10cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色砾質土	20cm
砂 層	25cm以上	轻 石 层		灰褐色酸化土	15cm	青灰色砾質土	30cm	青灰色砾質土	20cm
				シラス? (軟化)	20cm	青灰色砾質土	30cm	シルト	

▲: プラントオバル採取層位

第15図 八反今町地区道路土層柱状図

第6節 船引地区遺跡

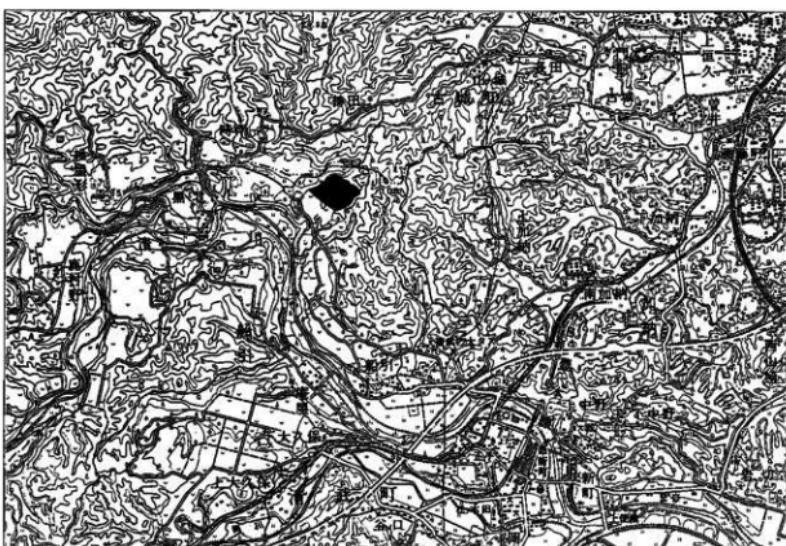
船引地区遺跡は、清武町役場の北西2.5km～4.0kmの清武町大字船引字札立から字白ヶ野に至るシラス台地上に点在する白ヶ野第1遺跡、滑川第1遺跡、滑川第2遺跡などからなる11か所の遺跡群で県営特殊農地保全整備事業船引地区内に分布する遺跡の総称である。この地区は宮崎市と小谷を境に隣接しており、宮崎市側では同じく県営特殊農地保全整備事業時屋地区と東九州自動車道に伴う発掘調査が行われている。

今回の調査は平成7年12月22日、平成8年1月19日に行った。調査区は平成8年度事業予定区である遺跡群の東端（台地の東端）にあたり平成7年度事業区の東に隣接している。調査区のうち西区は7年度に発掘調査を実施している白ヶ野第1遺跡の東に隣接し小さな谷を隔てて時屋地区遺跡群がある。また、調査区の東区は丘陵を大掛かりに削平した地区でシラス層がかなり現れている。さらにわずかに残る丘陵上（比高差約10m）の畠地にもトレンチを入れた。トレンチ数は西区に16カ所、東区の下段に8カ所、上段（丘陵上）に2カ所の計26カ所である。

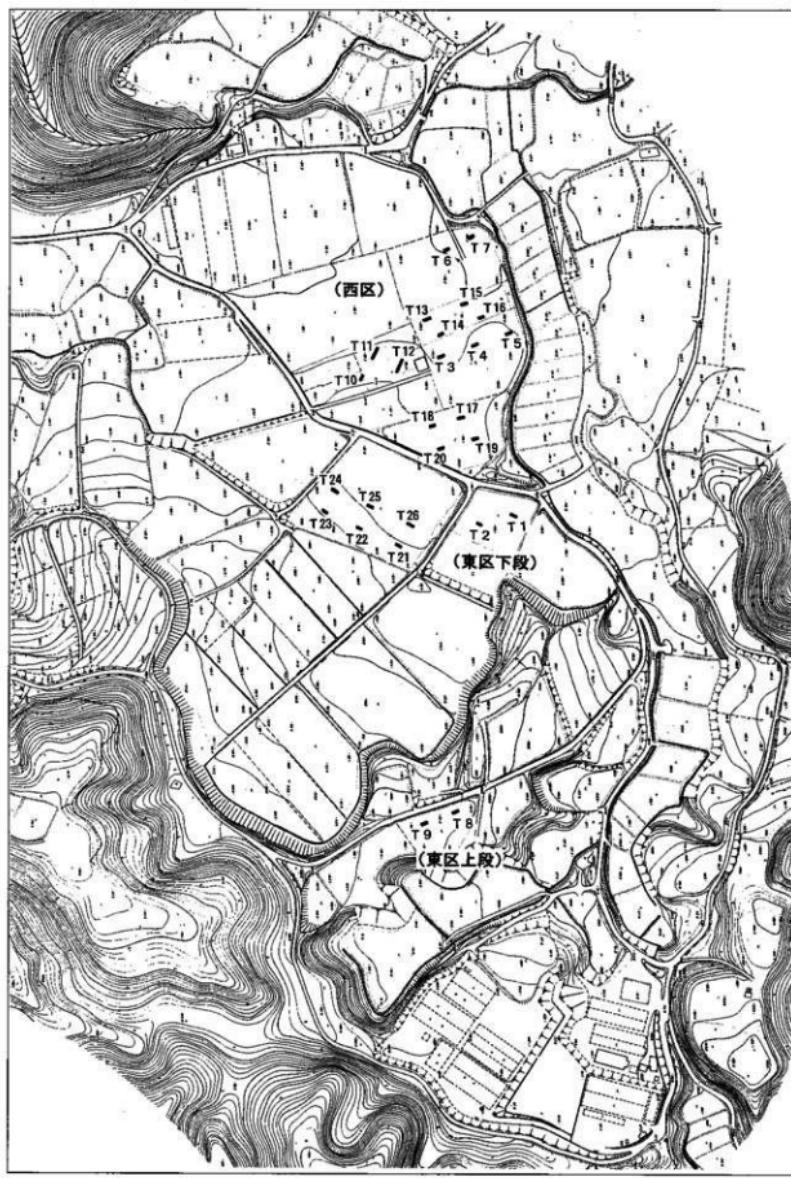
基本の土層は I 層～表土、II 層～2 次アカホヤ、III 層～アカホヤ火山灰、IV 層～黒褐色土、V 層～褐色土、VI 層～暗褐色土、VII 層～明褐色土となる。

西区ではあまり削平は受けておらず地層の残りは良い。II層中から土師器片、V層中から縄文土器片、焼穢等がT13、T14、T16のトレーナーが見つかっている。

東区の下段ではT-1とT-2がかなりの盛土、T21～T26ではV層～VI層にかけて削平されている。

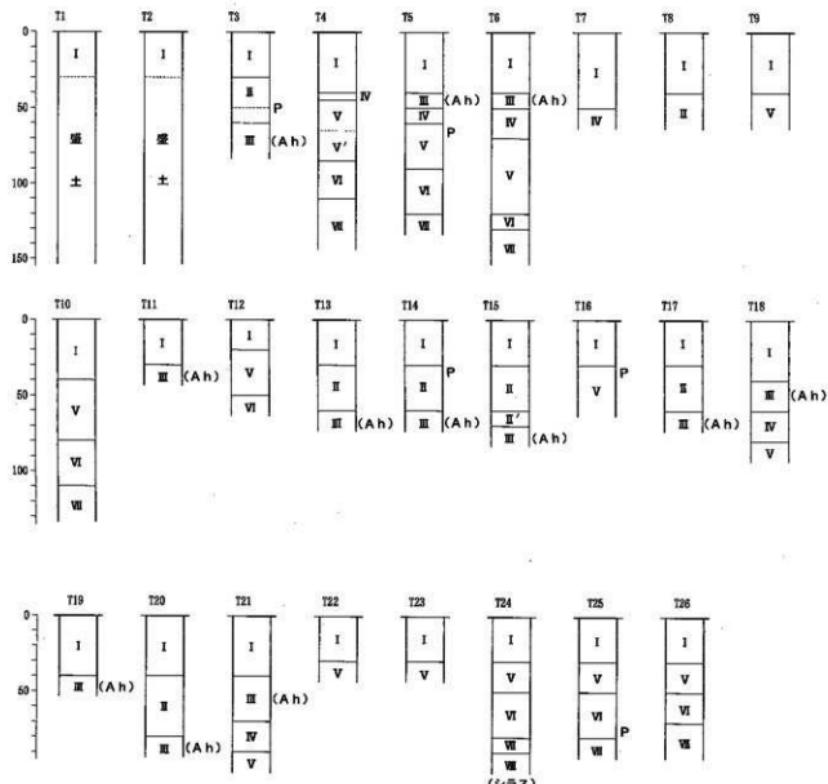


第16図 船引地区遺跡平成7年度調査地点位置図



第17図 船引地区遺跡トレンチ配置図

東区の上段ではV層まで削平されているがV層中から縄文土器片、石匙等の遺物が検出されている。今回の調査区では現在、平成7年度事業区内の発掘調査地区に隣接する西区（T3～T7、T10～T16を中心とした地域）に遺跡の広がりが確認できた。遺跡密度は低いもののアカホヤ火山灰層の上位（古代？）と下位（IV層とV層に縄文時代早期の2文化層）に文化層が認められる。なお、遺跡の広がりは東側の畑地（T17～T20）まで及ぶ可能性は薄いと思われる。また、東区の丘陵上はかなり削平を受けた地点も見られるが部分的にV層に縄文時代早期の遺跡が想定される。



Pは土層、Sは表

第18図 船引地区遺跡土層図

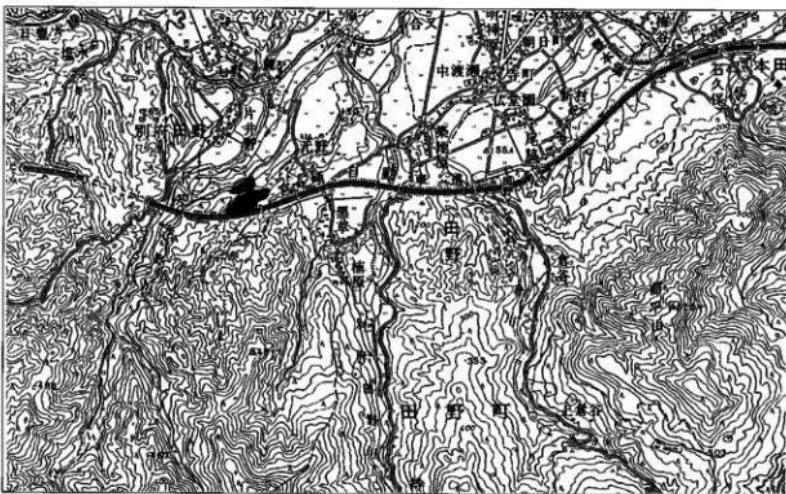
第7節 元野地区遺跡

元野地区遺跡は県営農地保全整備事業元野地区に含まれる地区に分布する遺跡群の総称である。田野町中央部に広がる標高約180m級のシラス台地の南西部端に分布しており、町役場から南西約3kmの位置にある。当該地区では、平成4年度から県営農地保全整備事業（特殊農地保全整備）が実施されており、これまでに町教育委員会が平成3年度に実施した遺跡詳細分布調査では高野原遺跡、本野遺跡、本野原遺跡、黒草第1遺跡、黒草第2遺跡など5遺跡が周知されている。そのうち高野原遺跡と本野遺跡は該当事業に伴い町教育委員会が発掘調査を実施している。

平成7年度の試掘調査は昨年度確認調査を実施した本野原遺跡及び黒草第2遺跡の西側の地区で平成8年1月24日・25日の2日間実施した。また、国営大淀川右岸農業水利事業のパイプライン敷設工事に伴う試掘調査も平成7年9月5日に行った。この地区は元野地区遺跡の中では最も西端にあたり宮崎自動車道に接する。なお、今回の地点は遺跡詳細分布調査では周知の埋蔵文化財包蔵地からは外れていた。

調査は宮崎自動車道添いの標高190m前後の若干の低地（A地区）に20カ所（国営パイプラインの試掘トレンチT18～T20も含めて）と北側の小さな谷を挟んだ標高195m～200mの高台（B地区）に14カ所（国営パイプラインの試掘トレンチT14も含めて）のトレンチを入れた。

この地区的基本的な土層はI層～表土（耕作土）、II層～暗褐色土、III層～2次アカホヤ層、IV層～アカホヤ火山灰層、V層～暗灰褐色土（硬質）、VI層～褐土色（暗褐色のブロックが混じる）、VII層～褐色粘質土、VIII層～明褐色土（白色、黄色の軽石、小石が混じる）、IX層～シラス層である。



第19図 元野地区遺跡平成7年度調査地点

(1) A地区

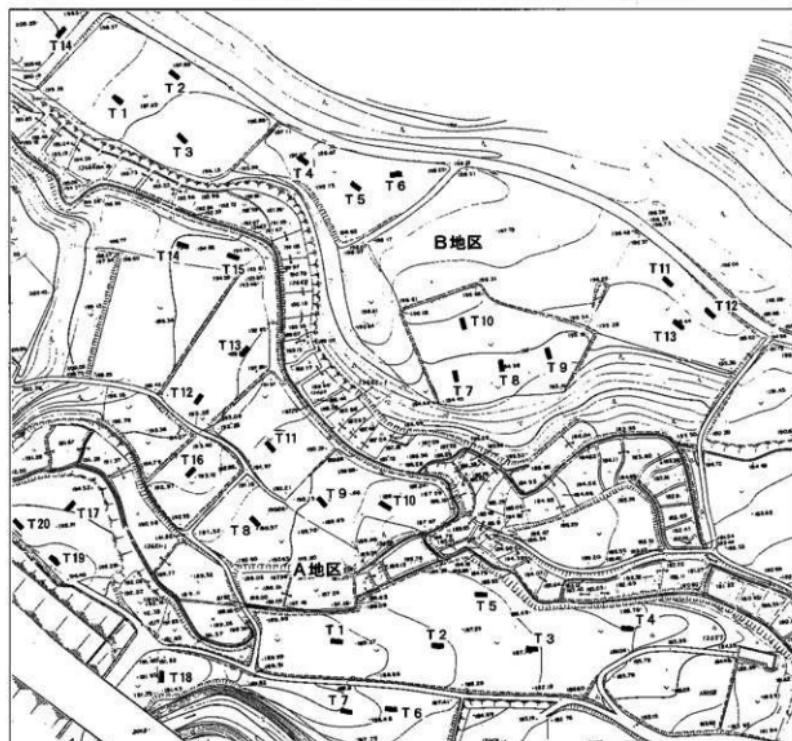
A地区は宮崎自動車道添いのやや低い平地にある。B地区とを分けた小さな谷がA地区内にも入り込んでおり東側の平坦地（T1～T7）、西側の丘陵斜面地（T8～T15）、宮崎自動車道の南側から入り込む平地（T18～T20）に分けられる。調査では計20カ所のトレンチを入れた。

調査の結果、T2、T13、T16、T17の各トレンチでV層（硬質暗灰褐色土）～VI層（褐色土）にかけて焼碟が1～2点検出された。ほぼ全域（低湿地は除く）に遺跡が認められるが、遺物が散布が然程ないことからかなり希薄な状況と考えられる。

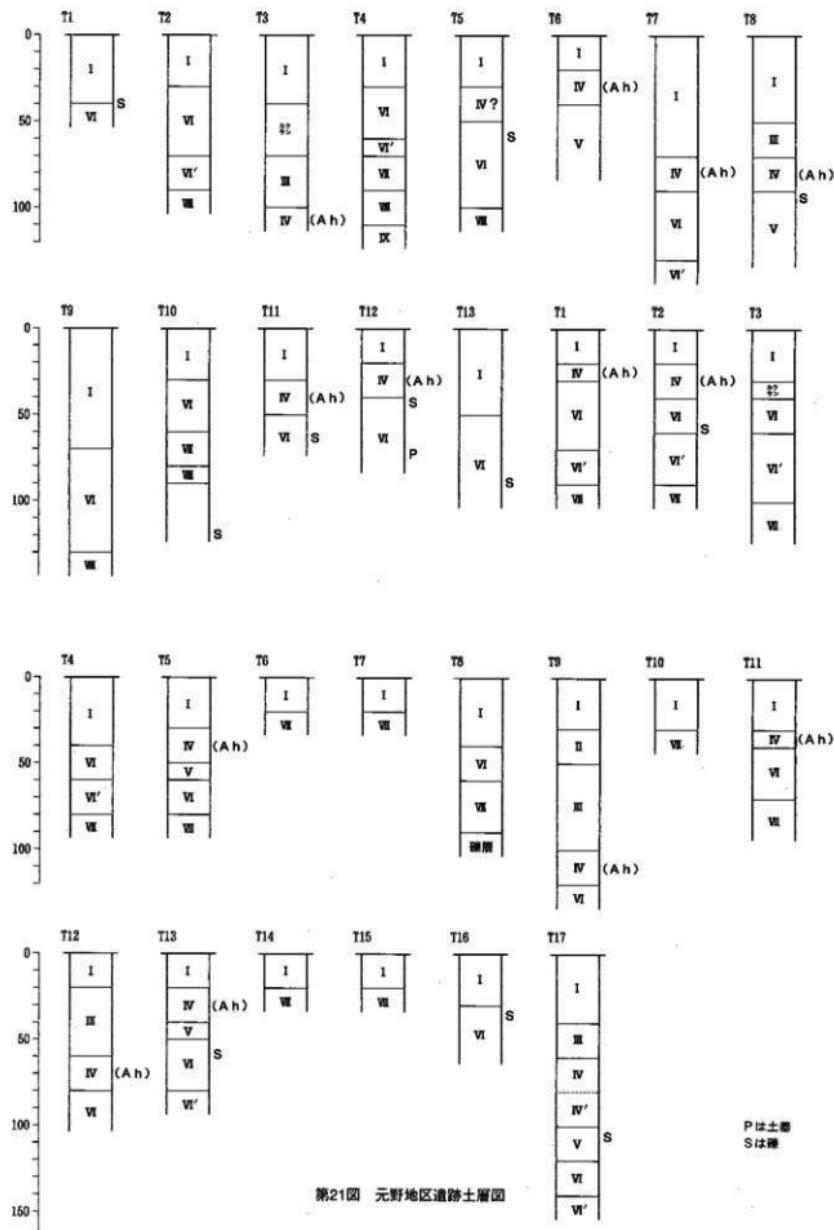
(2) B地区

B地区では西側のT1、T2、T4及びT9でⅢ層下まで削平されているが東側は概ねⅢ層は確認できる。そのうち、T6、T8、T10、T11～T13でVI層中から縄文時代早期の土器片や焼碟等が検出された。また、畑には縄文時代後期の土器片や石器等の遺物が散布しておりかなりの量を示す。

東側を中心に西側をも一部含む範囲で縄文時代早期の遺跡が分布する。また、表記資料に後期の土器も含まれることからアカホヤ層（Ⅲ層）上部で縄文時代後期の遺跡が残存する可能性も考えられる。



第20図 元野地区遺跡トレンチ配置図



第21図 元野地区道路土層図

事 業 地 区 名	通 路 名 等	所 在 地	調 查 期 間	備 考 (事業内容、面積結果等)
1 富吉 (ふみよし)	出下(でした)、通内(さこうち)	宮崎市大字富吉 えびの市大字富吉	6/15・7/13・8/16-17・12/11-14	水友良典 12号垂楊 土壠路
2 西ノ原 (にしのはら)	樅毫 (ごんひ)	宮崎市大字西原 北川村 (きたがわむら)	6/29・7/30・10/12-13	谷口武範 12号垂楊 濁根なし、土壠路、青道、白道、美村
3 海北北部 2 期		宮崎市大字野蒜崎 宮崎市野蒜崎	7/25-26	谷口武範 12号垂楊 亂構・植物なし
4 野崎 (のざき)	庵毛 (かげの)	高崎出田町野蒜崎 高崎出田町野蒜崎	8/10-1/26	谷口武範 12号垂楊 亂構・植物なし
5 魚野村 (うおのむらの)	前ノ原 (まののはら) 第1-3	宮崎市大字上三財 西臼杵郡西臼杵大字田代	8/23-24・2/5・2/7・2/9	水友良典 12号垂楊 亂構・植物なし
6 元野 (もとのの)	上之路 (うえのじゆ)	西臼杵郡西臼杵大字上三財 西臼杵郡大字上三財	9/5・1/24-25	水友良典 12号垂楊 亂構・植物なし
7 小川 (おがわ)	(みどりさんざい)	露野 (なはの)	9/13-14・10/30-31	水友良典 12号垂楊 乱構・植物なし
8 上三財 (じょうさんざい)	樋原 (なはの)	宮崎市青武町大字今集 宮崎市青武町大字今集	9/19	水友良典 12号垂楊 亂構・植物なし
9 中尾 (なかお)		宮崎市大字上江 宮崎市大字上江	9/26	水友良典 12号垂楊 亂構・植物なし
10 北川 (きたがわ)	新利川原 (しんのかわしま)	別府郡都農町大字北川 別府郡都農町大字北川	10/3	菅谷和樹 12号垂楊 濁根なし、土壠路、青道、植物なし
11 中尾牛原 (なかおひら)	下耳原 (しもみみづはら) 第3	光湯郡都農町大字上江 光湯郡都農町大字上江	10/11	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
12 細野 (ほその)		小林市大字牛野町 小林市大字牛野町	10/30	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
13 払川 (はらいかわ)	キシヨン原 (きしょんばる)	東臼杵郡西臼杵大字牛代 東臼杵郡西臼杵大字牛代	10/31-11/1	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
14 えびの	山神原 (やまじんばる)	石門町大字牛代 石門町大字牛代	11/6-12/11	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
15 石門町 (いしまち)	石門原 (いしまじんばる)	光湯郡大字石門町 光湯郡大字石門町	11/15-16・11/29	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
16 西臼杵 2 期	西門原 (いしまじんばる)	西臼杵郡西臼杵大字七折 西臼杵郡西臼杵大字七折	11/21-23	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
17 市谷 (いちだに)	大部 (だいぶ)	小林市大字萬方 都城市大字萬方町	11/28-30・12/5-6	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
18 平長谷 (ひらながはせ)		西臼杵郡千種町大字岩戸 西臼杵郡千種町大字岩戸	11/29-30	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
19 西臼杵 2 期		都城市上井原 (じょうがはら)	12/4-5	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
20 今町 (いまち)	井原田 (いはらだ)	都城市大字田原町・今町	12/6-7・12/12 - 12/14 - 15	石川悦雄 12号垂楊 亂構・植物なし
21 鹿島北部 2 期	竹山 (たけやま)	小林市大字細野 小林市大字細野	12/19	谷口武範 12号垂楊 濁根なし、禪文早生土壠
22 牧引 (まきひき)	(みかひき)	宮崎市青武町大字細引 宮崎市青武町大字細引	12/22 - 1/19	水友良典 12号垂楊 亂構・植物なし
23 中木原 (なかぎはら)	下原 (しもはら)	北諸県郡都農町大字木原 北諸県郡都農町大字木原	12/25 - 26	石川悦雄 12号垂楊 亂構・植物なし
24 中房島 (なかふしま)		都城市大字田原町 都城市大字田原町	1/16-17・2/13-14	石川悦雄 12号垂楊 亂構・植物なし
25 久谷 (くたに)		西諸県郡高原町・今町	1/17	石川悦雄 12号垂楊 亂構・植物なし
26 大坂 (おおさか)		西諸県郡高原町大字瀬手田 西諸県郡高原町大字瀬手田	1/25-26	石川悦雄 12号垂楊 亂構・植物なし
27 溢元 (ゆあひら)		東臼杵郡北川町大字長井	3/11-13	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
28 旗野 (ひのうの)			3/12-15	菅谷和樹 12号垂楊 亂構・植物なし
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

平成7年度 試掘調査・確認調査一覧

**平成 7 年度農業基盤整備事業
に伴う発掘調査概要報告書**

平成 8 年 3 月 31 日

編集：宮崎県文化課 宮崎市橋通東1-9-10
0985(26)7250

発行：宮崎県教育委員会
印刷：(社)富士写真印刷

宮崎郡佐土原町大字下郡河字浮橋7418-2
0985(74)2179